

平成27年 第4回定例会

閉会時 年末のあいさつ

平成27年第4回定例会の閉会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

今年一年、議員各位並びに市長をはじめとする市当局の皆様には、議会運営に多大なご協力を賜りましたことに、心から感謝を申し上げます。

この一年を振り返りますと、大雪警報も出た一月末の大雪に始まり、夏は観測記録を更新する35℃超えの猛暑日が連続4日、9月には、初の特別警報が発令された大雨に見舞われました。また、蔵王山に火口周辺警報が発令されるなど、様々な自然の脅威にさらされ続けた1年でありました。

その文字通り記録的な暑さの中、仙台市議会議員選挙が実施され、その結果を受け、我々の新しい任期が始まりました。復興と仙台の未来に対する思いも新たに第3回定例会に臨んだことは、皆様も同様であったかと思えます。

今年は、東日本大震災からの復興計画の最終年度という重要な年であり、復興公営住宅の建設がほぼ完成するなど、目に見える形での復興が一層進んだ年でありました。

振り返れば、あの震災の日から4年9ヶ月が過ぎ、ここに改めて、犠牲となられました皆様に深く哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りする次第であります。また、被災された皆様の生活再建に引き続き全力で取り組み、仙台の復興を揺るぎないものとしていく決意を新たにします。

こうした中、今年は仙台の将来のまちづくりにとって、極めて大きな、まさに歴史的な意味を持つ二つの出来事がありました。

一つは、今月6日の地下鉄東西線の開業であります。本市議会では、20年以上前、高速交通調査特別委員会の名称だった時代から、本市の総合交通体系について精力的に調査、議論を重ねてきました。東西交通軸促進、東西線整備促進、東西線・まちづくり促進等々、事業の進展に伴い名称は変遷しましたが、その過程では、ルートや機種を選定、建設事業

費、乗車予測等について、ご当局の説明や認識に苦言を呈し、見直しを求め、厳しい決意を迫る場面もあったかと記憶しております。しかしそれは、鉄軌道を基軸としたコンパクトで効率的な交通体系による新しい杜の都や、過度の自動車交通依存からの脱却、集約型都市構造への転換など、本市の未来に向けた大きな期待に根差す議論であったと思っております。

これまでの道のりを思うとき誠に感慨深いものがありますが、東西線開業により、他の公共交通と連携した、安全性、快適性、速達性に優れた環境にやさしい交通ネットワークが形成され、さらには沿線の学術・文化・ビジネス・観光など様々な機能や資源を連結し、新たな価値が創造されることが大いに期待されます。ご当局には、引き続きなお一層の確な取り組みをご期待申し上げます。

二つ目として、今年3月に、震災の経験と教訓を世界と共有するべく「第3回国連防災世界会議」が、新設された国際センター展示棟のこけら落としを兼ね、ここ仙台で開催されました。

この世界会議においては、新しい国際的防災指針である「仙台防災枠組」と、会議の成果をまとめた「仙台宣言」を、未曾有の地震災害から立ち上がって復興に取り組む仙台の地から、世界に向け採択・発信することができました。また、その経験を踏まえ、来年5月にはG7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議を開催することとなりました。これをきっかけに、国内外から多くの方に仙台を訪れていただき、また私たち市民もおもてなしの真心をもって接することで、世界中に仙台の魅力を発信し、交流人口の増加に結び付けていくことが期待されます。

一方、地方とりわけ被災地にとっては、地方消滅の危機が叫ばれる中、復興と生活再建、地域経済の活性化、雇用の確保、少子高齢化社会への対応、自治機能の強化など、待ったなしの課題が山積しています。

当議会でも、集団移転の促進や復興公営住宅の整備を始めとした復興事業の課題をはじめ、復興の先を見すえた経済施策などをめぐり活発な議論を交わし、市政の検証と重要施策についての意思決定を果たしてまいりました。

今後も引き続き、市民の皆様の安全・安心を確固としたものにするのと同時に、

「行ってみたい都市 仙台」

「もう一度行ってみたい都市 仙台」

「住んでみたい都市 仙台」

多くの方々にそう思っていただける魅力あふれる都市にしていくための議論を深めてまいります。

また、今年是我々自身の改選という大きな節目の年でしたが、改選後の新しい議会構成においても、各党派のご協力を得て、議会機能の充実と議会からの主体的な政策条例提案に向けた検討組織をそれぞれ立ち上げることができました。今後、積極的に協議を進めてまいります。

同時に、このたびの改選を通じてあらためて浮き彫りにされた課題である、被災地の選挙期日の再統一に向けても、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。先月は、県内の各市町村議会を回って各市の議長と直接お会いし、議長就任のご挨拶を申し上げるとともに、あらためてご協力とご理解をお願いしてまいりました。困難な問題も多く、実現に至る道は決して容易ではありませんが、被災地の議会議長として、現状を黙って見過ごすことを潔しとすることはできず、真摯に取り組みを進めたいと考えております。

今年最後の定例会最終日に当たり、鎮魂と被災された皆様のご苦難への思いを新たにするとともに、議員各位のご指導とご協力をいただきながら、より一層の議会運営に努めていく所存でございます。

市当局におかれましても、震災からの完全復興を目指し、併せて東北の経済を牽引する更なる都市力の向上に向け、大胆に、また誠実に、市政運営に努めていただきますよう、お願いを申し上げます。

終わりに、議員各位、並びに奥山市長をはじめとする市当局の皆様には、なお一層ご自愛いただき、お健やかに新たな年を迎えられますとともに、来るべき新年が全ての仙台市民と震災からの復興を目指す本市にとりまして、実り多く幸せな年となりますように、心からご祈念申し上げまして、あいさつとさせていただきます。

平成27年12月21日

岡部 恒司